

道北物産展 の上げ2割増加

市報告 購買単価伸びる

9市(旭川、留萌、稚内、芦別、紋別、士別、名寄、深川、富良野)で構成する実行委が主催。道北地域とサハリンの交流を拡大し、道北産品の輸出につなげる狙い。稚内とサハリンを結ぶフェリーの定期航路の維持や充実も目指し、商品の

輸送には船を使った。名寄市を除く8市が米やメロン、スイカなどの農産品に加え、焼き肉のたれやケーキなど87品目を販売した。日本製の食品は安全性が高いことから、評判が良かったという。常任委員会では、1人

当たりの購買単価が初開催の2013年は49万円、14年は77万円、15年は103万円とルーブル安にもかかわらず順調に伸びていることを報告。佐藤幸輝経済観光部長は「継続的な輸出拡大につなげていきたい」と述べた。(笠原悠里)

の呼びかけで3...秋にも開催し

元公務員高橋さん 東神楽にUターンし設立

ユニーク農業法人 設計や着付けも



色づく稲穂を眺めながら、初の収穫を心待ちにする高橋修さん(左)と教恵さん

【東神楽】農業を次世代に引き継ぐ一助になりたい。町出身の元公務員、高橋修さん(47)がUターンしてコメ農家5代目を継ぎ、妻の教恵さん(49)と農業生産法人を立ち上げて今年、就農した。稲作を中心に、前職や資格を生かして設計や着付けなども行うユニークな会社。間もなく始まる初の収穫を心待ちにしている。(中沢広美)

間もなく米の初収穫

修さんは大学進学を機に 開発局に就職。札幌出身の町を離れ、卒業後は北海道 教恵さんは看護師で、とも

夫婦の資格活用「幸せ届けたい」

に農業とは縁がなかった。だが、転機が訪れる。修さんの父俊夫さん(75)は2004年に離農し、農地を10年契約で貸していた。契約切れを前に、修さんは「健康の源は毎日の食。自分たちでおいしいコメを作りたい」と就農を決意。昨年4月、札幌から家族で実家に移り、会社を設立した。農業生産法人にしたのは「農業者が減る中、未来に農業を残すのに最善だと考えたから」。農業を中心に、人々に幸せを届けたいとの思いを込め、社名を「縁ing Japan(エニシングジャパン)」とした。1級建築士の修さんは設計や空き家管理、和装着付けコーディネーターの教恵さんは着付けも手がける。昨年は貸していた農地の農作業を手伝い、今年はお親に教わりながら約8畝の水田で「ゆめぴりか」や「なつぼし」を育て、ピーマンやトウモロコシも栽培。収入は月数万円で借金もあるが、「農作業は充実している」と口をそろえる。社員は現在、夫婦と修さんの両親の4人だが、事業を拡大して従業員を雇いたいという。修さんは心臓にペースメーカーを入れており、操作できない機械もある。「僕もハンディがある。将来は障害のある人も雇い、協力し合えるような会社に育てたい」と意気込む。

【東川】産の試験栽培が...全国有数の産代から伝わる行われている。で殺菌して繊維る「湯かけ」く。へンプは麻草まず、欧州で宅用断熱材な栽培するのは免許を持つ農(67)と一般社用大麻協会代(65)。



旭川空港など発の国際線を運会社などが9日海外旅行客増を会社の担当者に提供。「ミニター」を旭川で開いた。エバー航空な道内空港を利用外旅行客の増加を会社などが開セミナー」

撮影)